



東学思想の侍天主天観に現れたリミナリティ

Liminality in Donghak Sicheonju View of Heaven

目次

- 1 研究背景
- 3 水雲の天師問答と宗教体験
- 5 リミナリティ概念と適用
- 7 無極大道と造化の概念
- 9 結論および意義
- 2 東学思想の侍天主(侍天主)天観概念
- 4 東学と西学の比較
- 6 東学の思想的背景
- 8 東学天観の自生的近代性
- 10 参考文献および質疑応答



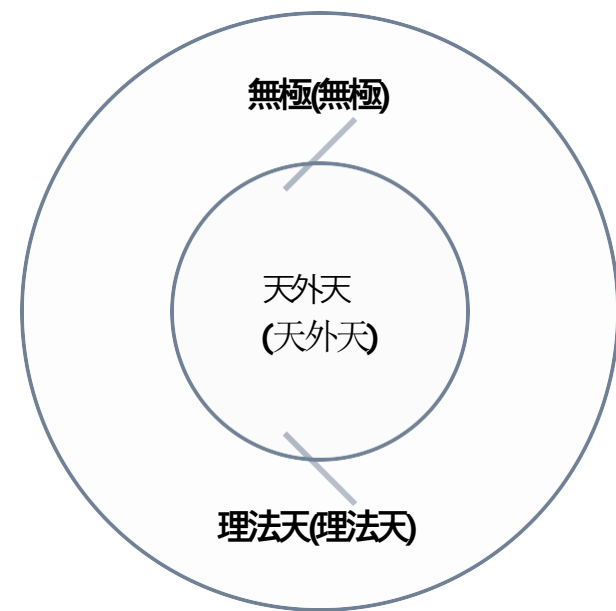
研究背景性理学の限界と東学の登場

性理学の理法天(理法天)は朝鮮後期社会において新たな時代の問題を解決できない段階に至った。

このような背景のもと、東学は天の上の天である天外天(天外天)、すなわち無極(無極)の天という新たな天観で時代的解法を提示した。

東学が提示した新たな天観は性理学の理法天とは異なり、天の上の天、すなわち天外天(天外天)との直接的疎通を強調した。

東学思想は既存の天観・地観・人間観において注目されなかった天外天の概念を強調し、天観・地観・人間観の自生的近代性を図る。



東学の天観理法天を超えた天外天との直接的疎通

東学思想の侍天主天観の概念

侍天主(侍天主)とは、性理学の「天」と異なる「天の上の天」との直接的疎通を意味する東学の核心概念である。

水雲は生涯にわたり「天の上の天」との直接疎通のために自身のすべての力量を投入し、四十年余の長年の努力の末に庚申年(1860)の天師問答(天師問答)に至る。

東学思想に現れた上帝の出現は、正統性理学の立場から見れば怪力乱神(怪力亂神)に属する異例的かつ異端的な姿であった。

- 独自の天観侍天主概念は性理学の理法天(理法天)、西学の天主(天主)と差別化される
- 『東経大全』と『龍潭遺詞』: 水雲の天師問答はこの二つの経典に詳細に記録されている
- 天外天(天外天)との疎通天の上の天と直接対話する宗教的体験を



→

侍天主 造化定 永世不忘 万事知
(侍天主 造化定 永世不忘萬事知)

- 『東経大全』

水雲の天師問答と宗教体験

天師問答(天師問答)水雲が1860年(庚申年)陰曆四月五日に上帝から受けた最初の啓示と、その後六ヶ月間持続した対話

東学思想が宗教史において最も特徴的な点は、創始者の宗教経験が非常に詳細かつ長い時間にわたって表現されたことである。

水雲は四十年に近い長い歳月努力してきた末に、ついに庚申年に至り天師問答に到達する。

「思ひかけず四月に心がぞくりとし身体が震えてある神仙の言葉があり、ふと耳に聞こえたので驚いて問うたところ、答えて曰く「**恐れ、恐れるな。世の人々は我を上帝と呼ぶが、汝は上帝を知らぬのか**」」

水雲の天師問答以後に著述された『龍潭遺詞』と『東経大全』にこの経験が詳述されている

最初の啓示
上帝との出会い
1860年4月5日

『龍潭遺詞』
『東経大全』著述
1年後

6ヶ月間

霊的対話

-水雲の天師問答の中から-

東学と西学の比較

運則一(運則一)、道則同(道則同)、理則非(理則非)

水雲は東学と西学の違いをこう表現する:「運数は一つで道は同じだが、理は異なる。」目標(運、道)は同じだが、方法と理は異なる。

東学は天の気運が身に凝縮される気化(氣化)を強調し、守心正氣(守心正氣)の修練を通じた自然な教化を重視する。

一方、西学は「自らの利益のための祈祷」に偏重し、形式はあるが実がないと東学は批判する。

我が受ける道は天主の意に従い自然に世を教化する
化する(吾道無爲而化矣)

区分	東学(東學)	西学(西學)
天観(天觀)	天外天(天外天)	天主(天主)
修練方法	呪文修練 守心正氣 (守心正氣)	祈祷中心 司祭と信徒の分離
特徴	気化之神 (氣化之神)	形式のみで 実質がない
教化方式	無爲而化 (無爲而化)	自己の利益のための 祈り

ケン・ウィルバー:「西洋思想の最大の弱点は修養論がないこと

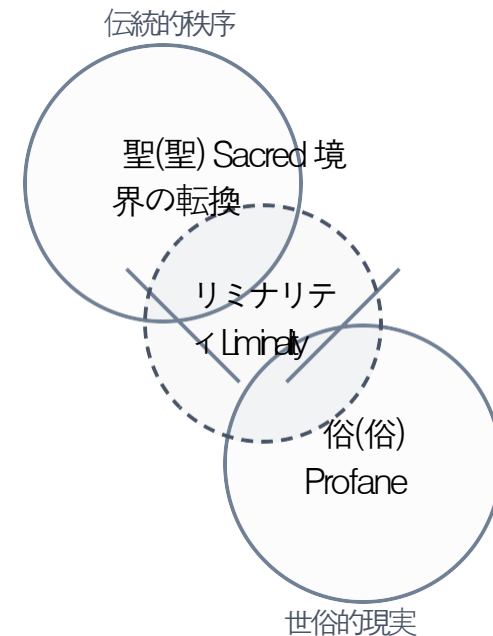
リミナリティ概念と適用

リミナリティ (Liminality) とは、境界の転換、聖-俗の再配置、既存秩序の解体と再構成が行われる境界的状态を意味する。

東学思想は次のようなリミナリティ特性を示す:

- 天外天との直接的疎通を通じて日常世俗において聖(聖)を経験する聖俗の順位再配置
- 守心正気(守心正氣)を通じて既存の重層化した問題を解決する境界越え
- 性理学の「理法天」と西学の「天主」を超えた新たな天観(天觀)の提示

多重近代性理論において、近代性は東学思想のように既存の天観・地観・人間観から疎外された部分を再活性化し、聖-俗の順位を変えて俗が聖を受容できるように転換する統攝とリミナリティにおいて発生する。



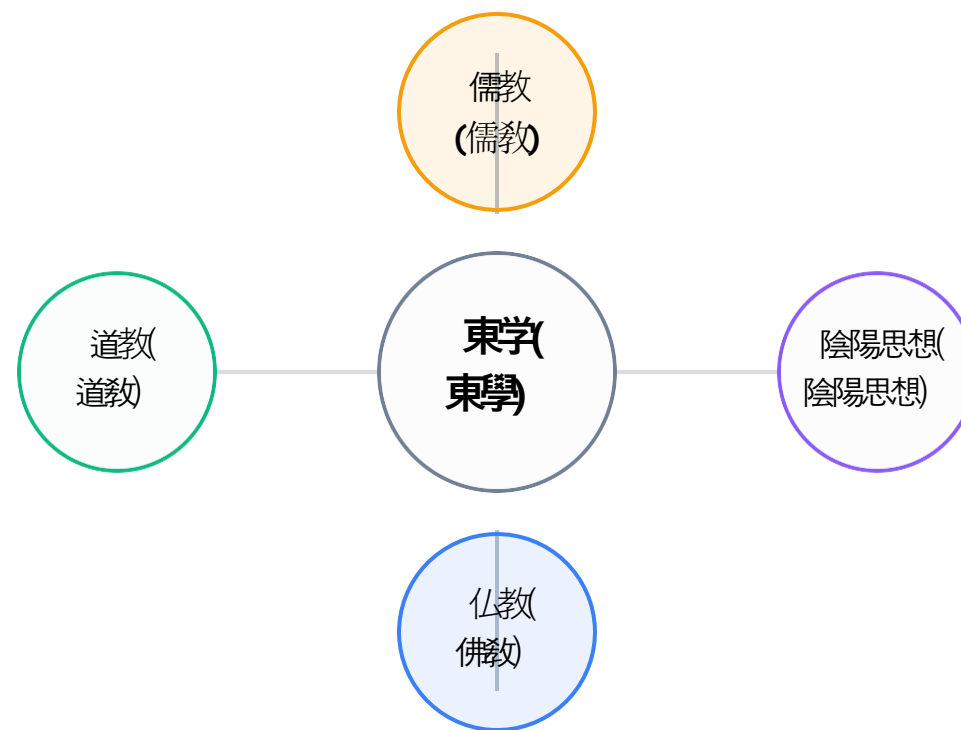
東学思想のリミナリティ:
聖-俗の境界を超えた新たな近代性の
創出

東学の思想的背景—儒仏仙道教の影響

東学は多様な東アジア伝統思想を基盤として独自の
天観を発展させた。

多様な宗教的背景の中で、東学は独自路線を確立しつつ
も既存伝統の長所を受容した。

- **儒教(儒教)**東学は性理学的天観を基盤とし、「気(氣)」
の役割を強調した。しかし性理学の理法天を超えた
新たな天観を提示した。
- **道教(道教)**朝鮮後期の鸞壇道教(鸞壇道教)の影響で呪文
修練と東学歌詞に道教伝統が反映された。水雲は甌山
により「後天仙道の宗長(宗長)」に任命されもした。



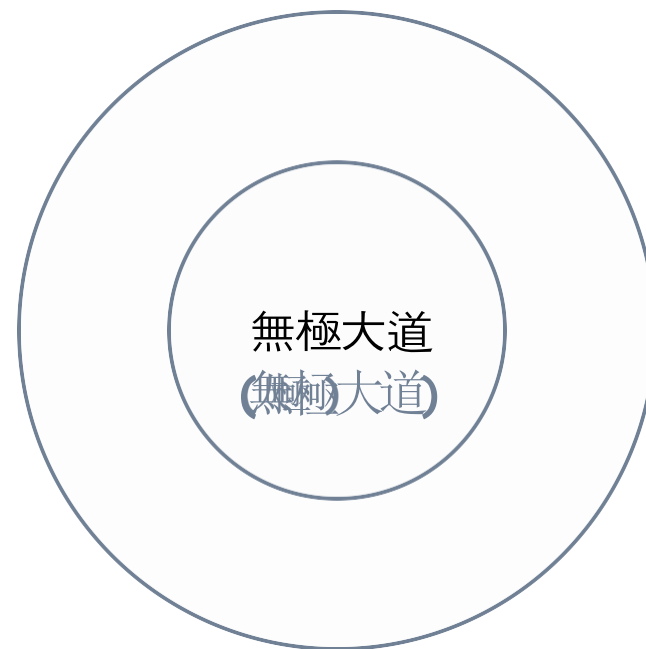
無極大道と造化の概念

無極大道(無極大道)は陰陽が区分される以前の状態である太極よりも前の状態を指す概念で、太初の宇宙と関連する。

これは天観の側面で天の外为天、すなわち天外天(天外天)に相当する。

「汝は無窮無窮の道に至ったので、修鍊鍛練し、書を著して人を教え、法を正しくして徳を敷けば、汝をして長生し天下に輝かせよう。」

造化(造化)と無為而化(無爲而化)水雲は呪文を解釈しつつ、「造化」とは「無為而化」を意味し、「定(定)」とは「合其徳(合其徳)、定其心(定其心)」を意味すると解いた。



造化(造化)

創造的变化

無為而化(無爲而化)

自然な変化

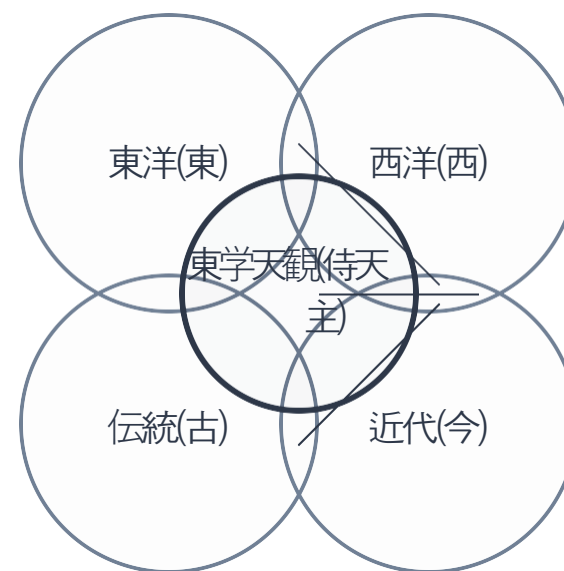
東学天観の自生的近代性

東学思想の天観は東西古今の天観を包括かつ超越する自生的近代性を示す。

東学の侍天主(侍天主)天観は性理学の理法天と西学の天主を統合しつつ、これを超える天外天との直接的疎通を強調する。

境界の解体と再編-東学思想は聖なるものと世俗 伝統と近代の境界を再構成し、日常において聖(聖)を経験できるようにする。

東学思想の天観が持つ自生的近代性は聖と俗を再編し、東西古今の天観を包括し超越する。東学思想の天観は東洋儒仏仙の長所を最大限受容し、西洋天観の優秀性も包容しようとする。



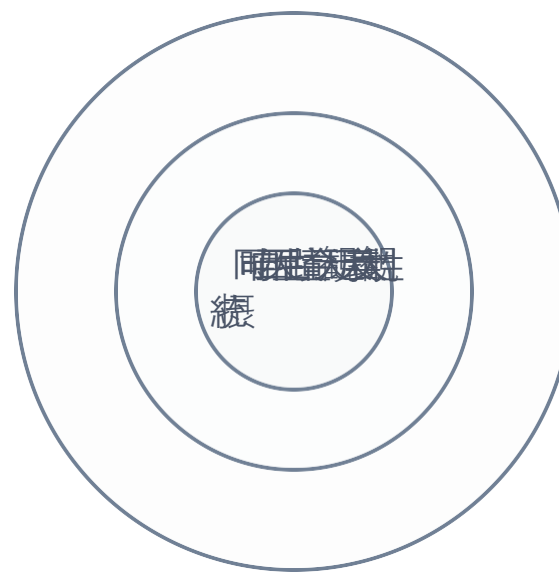
東西古今(東西古今)を統攝する
東学天観の自生的近代性

結論および意義

東学の侍天主天観は伝統と近代を包摂し、東西古今の天観を包括する超越的思惟体系を示す。

これは既存の天観で注目されなかった天外天概念を中心に、聖と俗の境界を再編するリミナリティを通じて自生的近代性を成就した。

- 現代的意義東学の天観は今日、伝統と現代、東洋と西洋、宗教と科学の境界を超える新たな思惟様式のモデルとなる。
- 自生的近代性西欧帝国主義への抵抗であり主体的な近代性の模索であるという側面から現代の危機の代替的観点を提供する。
- 守心正気と呪文修練実践的側面においても現代人の精神的危機に対する解法を提示する。



東学思想のリミナリティ:
境界を超えた統合的思惟

参考文献および質疑応答

主要参考文献

- 崔済愚、『東經大全(東經大全)』、「論学文(論學文)」
- 崔済愚、『龍潭遺詞(龍潭遺詞)』
- 裴榮淳、『東学に現れた侍天主の天地人思想研究』
- 金容沃、『東学とは何か』
- 黄玪、『梧下記文(梧下記文)』
- 崔時亨、『海月神師法説(海月神師法説)』
- 李敦化、『天道教創建史(天道教創建史)』
- 尹錫山、『東学教祖 水雲 崔済愚』
- 尹以欽、『韓国宗教研究』
- 安裕京、『退溪と東学の心性論比較研究』



質疑応答

東学思想の侍天主天觀とリミナリティに
関する

質問を歓迎いたします。

ありがとうございます。